

<b>Course number</b>		U-LAS70 10001 SJ50			
<b>Course title (and course title in English)</b>	ILASセミナー：京都の海の沿岸動物学入門 ILAS Seminar :Introduction to marine animals in the coastal areas of Kyoto		<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Field Science Education and Research Center Assistant Professor,SUZUKI KEITA Field Science Education and Research Center Associate Professor,KAI YOSHIAKI Field Science Education and Research Center Assistant Professor,HENMI YUMI	
<b>Group</b>	Seminars in Liberal Arts and Sciences		<b>Number of credits</b>	2	<b>Number of weekly time blocks</b> 1
<b>Class style</b>	seminar (Face-to-face course)	<b>Year/semesters</b>	2025・First semester		<b>Quota (Freshman)</b> 7 (7)
<b>Target year</b>	Mainly 1st year students	<b>Eligible students</b>	For all majors		<b>Days and periods</b> Fri.5
<b>Classroom</b>	(North Campus)			<b>Language of instruction</b>	Japanese
<b>Keyword</b>	多様性生物学 / 魚類 / プランクトン / ベントス / 日本海				

#### [Overview and purpose of the course]

京都の海をフィールドに日本海沿岸域の環境と生物の特徴と多様性を学ぶ。

まず、吉田キャンパスにおける3回の講義と参加者同士の議論を通し、日本海沿岸域の魚類とプランクトン（浮遊生物）およびベントス（底生生物）の形態や生態と生息環境の関係を学習する。

次に、フィールド科学教育研究センター舞鶴水産実験所において2泊3日の実習に参加し、教育研究船による海洋観測や生物採集、サンプル分析やデータ解析、卸売市場の見学などを行い、京都の海の魅力と不思議を体感する。

最後に、吉田キャンパスにおいて（またはオンラインにて）講義と実習を通して学んだ成果を各自が発表し、参加者同士で意見交換を行う。

#### [Course objectives]

- ・ 日本海沿岸域の環境と生物の特徴と多様性を理解する。
- ・ 沿岸域における生態学的調査の基礎を習得する。
- ・ 海洋生態系の主な構成要素とそれらの相互関係を理解する。

#### [Course schedule and contents]

第1回講義 6月27日（金）「日本海の環境とプランクトン」

（担当：鈴木；場所：農学部）

- ・ 海洋生態系の主な構成要素とそれらの相互関係を説明する。
- ・ 日本海の環境とプランクトンの特徴を解説する。
- ・ 担当教員による関連研究の最新成果も紹介する。

第2回講義 7月4日（金）「日本海のベントス」

（担当：遠見；場所：農学部）

- ・ ベントスの多様性とその生息環境について解説する。
- ・ 日本海におけるベントスの特徴について解説する。
- ・ 担当教員による関連研究の最新成果を紹介する。

ILASセミナー：京都の海の沿岸動物学入門(2)

第3回講義 7月11日(金)「日本海の魚と水産業」

(担当：甲斐；場所：農学部)

- ・日本海の魚の特徴とその由来を解説する。
- ・日本海を代表する魚種とその漁業を解説する。
- ・日本海の魚類多様性に関する議論をする。

実習 7月19日(土)~21(月・祝)「京都の海の魅力と不思議を体感」

(担当：鈴木・甲斐・遠見；場所：舞鶴水産実験所)

- ・西舞鶴駅に集合・解散(公共交通機関により各自移動)
- ・教育研究船により海洋観測と生物採集を体験する。
- ・魚類・プランクトン・ベントスを同定・計数し、環境と生物の関係を分析する。
- ・卸売市場などを見学する。

第4回講義 日程未定「成果発表と意見交換」

(担当：鈴木・甲斐・遠見；場所：農学部またはオンライン)

- ・講義と実習を通して学んだ成果を各自が発表し、参加者同士で意見交換を行う。

[Course requirements]

None

[Evaluation methods and policy]

講義への参加姿勢(20点)、実習への参加姿勢(40点)、成果発表と意見交換の内容や姿勢(40点)について、到達目標の達成度にもとづき評価する。

[Textbooks]

Not used

[References, etc.]

(References, etc.)

山下ほか『里海フィールド科学 - 京都の海に学ぶ人と自然の絆』(京都大学学術出版会, 2022年) ISBN:978-4814004454

蒲生俊敬『日本海 その深層で起こっていること』(講談社, 2016年) ISBN:978-4062579575

中坊徹次『小学館の図鑑Z 日本魚類館』(小学館, 2018年) ISBN:978-4092083110

日本ベントス学会『海岸動物の生態学入門 - ベントスの多様性に学ぶ』(海文堂, 2020年) ISBN:978-4303800512

(Related URL)

<https://www.maizuru.marine.kais.kyoto-u.ac.jp/>(舞鶴水産実験所ホームページ)

[Study outside of class (preparation and review)]

参考書などに目を通し、日本海的环境と生物の概要を理解したうえで、自らの興味に応じ疑問点を整理してください。

[Other information (office hours, etc.)]

特に専門的な知識は必要ありませんが、海的环境や生物に興味のある人を募集します。フィールドでの実習を伴うため、傷害保険(学生教育研究災害傷害保険、旅行傷害保険等)に必ず加入してください。また、実習期間中の交通費や宿泊費は各自が負担することになります(京都駅から西舞鶴駅までJR特急片道3,220円、実験所宿泊棟1泊900円)。なお、第4回講義「成果発表と意見交換」を8

Continue to ILASセミナー：京都の海の沿岸動物学入門(3)

月中旬以降に実施した場合、成績報告が通常より遅れる可能性があります。